

## ■本資料のご利用にあたって(詳細は「利用条件」をご覧ください)

本資料には、著作権の制限に応じて次のようなマークを付しています。  
本資料をご利用する際には、その定めるところに従ってください。

\* : 著作権が第三者に帰属する著作物であり、利用にあたっては、この第三者より直接承諾を得る必要があります。

CC : 著作権が第三者に帰属する第三者の著作物であるが、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもとで利用できます。

Ⓒ : パブリックドメインであり、著作権の制限なく利用できます。

なし : 上記のマークが付されていない場合は、著作権が東京大学及び東京大学の教員等に帰属します。無償で、非営利的かつ教育的な目的に限って、次の形で利用することを許諾します。

- I 複製及び複製物の頒布、譲渡、貸与
- II 上映
- III インターネット配信等の公衆送信
- IV 翻訳、編集、その他の変更
- V 本資料をもとに作成された二次的著作物についての I からIV

ご利用にあたっては、次のどちらかのクレジットを明記してください。

東京大学 UTokyo OCW 朝日講座「知の冒険」  
Copyright 2014, 吉澤誠一郎

The University of Tokyo / UTokyo OCW The Asahi Lectures “Adventures of the Mind”  
Copyright 2014, Seiichirou Yoshizawa



# 共生(共に生きる)とはどういうことか

- 人と人が共に生きる  
家族の同居  
「社会」の形成

著作権の都合により、  
ここに挿入されていた画像を  
削除しました。

サザエさん一家のイラスト

- 「僕らはみんな生きている♪」  
多様な生物の共生
- それだけか? (ロボットは? 遺跡は?)

# 共生は難しい

家族内部の矛盾

社会の中の対立

民族紛争

国家どうしの戦争

自然破壊・生物種の絶滅



Maj. R.V. Spencer

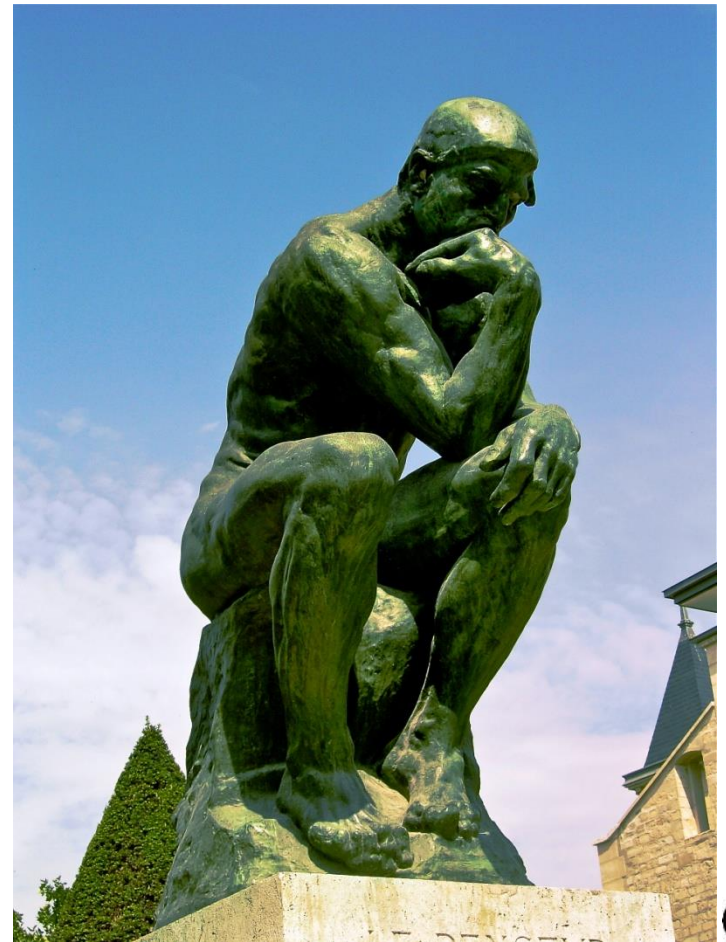
→人類は様々な矛盾と対立に直面してきた

(直面している)

(直面していっくだろう)

# 共生の模索

- 「共生」を模索することで、さまざまな思想・宗教・学問が展開してきた。



# 康有為(1858-1927)

清朝末期～民国初年の思想家で  
政府の制度改革を提唱。

1898年、戊戌の変法で活躍した  
が、政変で亡命。海外で亡命生  
活を送る。

1913年、ようやく帰国したのちも、  
とくに共和政に反対する政治活動  
を続けた。





# 康有為の思想

- ・孔子を非常に重視する独特の学説を展開。
- ・仏教・自然科学など、古今東西の智慧を総動員して自分の思想を形成。
- ・中国の将来を考えるだけでなく、全人類の未来を展望しようとした。



# 康有為の『大同書』(1935年)

- すべての差別と抑圧がなくなる「大同」の世界を展望
  - 「三世」の進化  
    刼乱世→昇平世→太平世
- 康有為の生前には一部分のみが発表された  
    (その内容の過激さ・破天荒ぶりのせいかな?)  
    大体の内容は1901-02のインド滞在中に執筆



# 『大同書』のアイデアの基

- 「『大同書』は孔子の大同説とキリスト教・仏教の「平等」などの教義を生かし、またダーウィンの進化論、プラトンのユートピアそしてフーリエやオーウェンの空想的社会主義の影響を受けている。」(湯志鈞の評言)
- 実は、エドワード・ベラミー『顧みれば』や井上円了『星界想遊記』といったユートピア物語を参照したことも指摘されている。

# 『大同書』の構成

- 第1部 世界に入りて衆苦を観る  
現代社会には様々な矛盾と苦悩がある
- 第2部 国界を去りて大地を合す  
世界を統一する政府を作り戦争を無くそう
- 第3部 級界を去りて民族を平らかにす  
身分の差別を無くそう
- 第4部 種界を去りて人類を同じくす  
人種の差別を無くそう
- 第5部 形界を去りて独立を保つ  
男女の差別を無くそう

## 第6部 家界を去りて天民となる

家を無くし、赤ん坊から老人まで公的施設で面倒を見ることにしよう

## 第7部 産界を去りて生業を公にす

農・工・商という生業を官営にしよう

## 第8部 乱界を去りて太平を治む

すべてをみごとに指揮する政府を作ろう

## 第9部 類界を去りて衆生を愛す

あらゆる生物を慈しもう

## 第10部 苦界を去りて極楽に至る

大同の理想的な世を作り出そう

# ちよつと休息

- ユートピア(utopia/烏托邦)の語源  
モマス・モア『ユートピア』がひとつの起源
- ユートピア物語の魅力  
あまり素晴らしい世の中に見えない点  
→実はディストピア(dystopia)か
- ウェルズ「タイムマシン」(1895年)  
人類は退化する?  
SFにおける進歩への懐疑という主題

# SFにおけるディストピア

ジョージ・オーウェル(著)  
高橋 和久(訳)  
『一九八四年』[新訳版]  
早川書房、2009年

<http://www.hayakawa-online.co.jp/product/books/310053.html>

レイ・ブラッドベリ(著)  
伊藤 典夫(訳)  
『華氏451度』[新訳版]  
早川書房、2014年

<http://www.hayakawa-online.co.jp/product/books/11955.html>

# 康有為の「大同之世」



- あらゆる差別と対立が解消された理想世界の構想
- 決してディストピアを提示する意図はなく、  
真摯に理想を追求

# 人種差別の解消をめざして

## 康有為の見方

アメリカ合衆国における黒人差別の現状  
白人は黒人と同席しようとしな

「たとえ学識才能が傑出していても、形状  
肌色がちがうということでだれもが排斥する  
のである」

坂出祥伸訳『大同書』（中国古典新書、明德出版社、1976年）  
「丁部 種界を去って人類を同じくす」、p.128坂出訳4-5行目より



# 康有為の提言

- そもそも人類を平等大同に統一しようと望むなら、どうしても人類の形状・体格を同じくすることから始めなくてはならない。かりに形状や体格がちがっていれば、礼儀作法や事業や親愛の情はどうしてもちがってくる。

# 康有為の発想の背景

「人種race」の理論

今日からみれば疑わしい疑似科学だが、  
当時は影響力のある最新の「科学」理論

☆歴史的構成物としての「人種」概念

cf. 社会構成主義vs 本質主義

進化論と優勝劣敗の思想

優生学への関心

「世の中を良くするには、まず人間そのものを良くするのが大切だ……」

# 人の形状・体格は変化する?!

- ・カナダで「インディアン」に同化した華人
- ・雲南で火で調理した食べ物を口にしなかったら「毛人」になった華人の例
- ・12歳でカナダの白人家庭に住むようになった華人は、17・18歳で白人と同様の血色・体格になった。

# 康有為の人種同化論

- 扞乱世

黄・白・褐色・黒の差別がある。

- 昇平世

褐色と黒は減少していき、または黄に同化される。黄と白だけならば、相違は小さい。

- 太平世

黄と白は同化して一つになる

# 康有為の夢

- 差別と抑圧のない世界

- もうひとつの例

徹底した男女平等の主張

「そもそも男女をすべて人類と考えるならば、  
どちらも天の生みだしたものである」

→でも現状は女性は抑圧されている



©

# 康有為の提言

女性を差別する様々な制度を改変せよ  
女性の独立を認め行動を自由にせよ  
教育や政治的権利を平等にせよ  
夫婦別姓にせよ  
男女の服装を同じにせよ

婚姻を期限付きにせよ(一か月以上一年以内)  
愛情は移ろいやすい

# 康有為の提言(続き)

家族制度をなくせ

→出生から老後まで、公的な施設が面倒をみる

一例「人本院」

妊娠した女性は、ここに入る。

完備した施設で、妊婦は胎教に専念する。

出産後、授乳期間を経て、女性は退院する。

→子供は公的施設「育嬰院」に送って育てる



# 少子化問題についての困惑

- フランスなどでは人口減少がみられる

「なぜなら、女性が高い教育を受け、みな自由を楽しむようになると、子供を産むのを願わなくなるからだ」。

「だから太平の世で男女同権になったあと妊娠・出産は人類存亡の一大事である」

→墮胎は最高刑(終身懲役)にすべきだ

# 康有為の夢想した「大同」

ユートピアか？ ディストピアか？

康有為は、どこまで本気で述べているのか。

だいぶ将来のことと見なしている

人間の本質に基づいて演繹した結果だと思っているので、これで幸福が実現するはずだという楽観的な気分が濃厚にある

# 共生の夢

「社会的な問題」の発見

→何とか「解決」したい

→「根本的な解決」をめざす思想や運動

理想を真摯に求める結果が、共生の悪夢をもたらす恐れもある

(悪い奴・困った輩を矯正すれば共生できる...)

つまり「共生の夢」への警戒を怠ってはならない

# それではどうするか

でも「問題」を見つけて努力するのもまた人間らしい態度だろう

学問は、共生の難しさを十分に認識しながら、少しでもそれに近づこうとする試みといえる

今後、この授業では、さまざまな学問の領域から「共に生きるための知恵」を見出していきたい

# 今回のグループワーク課題

そもそも人類を平等大同に統一しようと望むなら、どうしても人類の形状・体格を同じくすることから始めなくてはならない。かりに形状や体格がちがっていれば、礼儀作法や事業や親愛の情はどうしてもちがってくる。

このような康有為の主張に対し、あなたはどう思いますか。その賛否の理由を含めて、康有為に向けて自分の意見を述べるつもりで考えてみてください。